

## とちゅう（杜仲）の害虫

# トチュウウスクモヨトウ

平成 29 年 4 月に県内において国内未記録種の蛾が採取され、飯田市美術博物館学芸員の四方圭一郎氏により、トチュウウスクモヨトウ *Protegitra songi* (Chen&Zhang) であることが確認された。同年 9 月に日本蛾類学会連絡誌において報文が発表され、11 月には日本鱗翅学会大会において、口頭発表され、新聞等により報道された。

一方、杜仲茶の原料として上伊那地域で栽培されているとちゅう（杜仲）において、チョウ目の幼虫によると見られる食害が平成 28 年頃より確認されており、平成 29 年 11 月 29 日に栽培者より病害虫防除所に相談があった。翌 30 年 6 月に、上記の栽培者のほ場において、チョウ目の幼虫によると見られる食害が確認されたため、この幼虫を採取してとちゅう葉で飼育し、成虫を得ることに成功した。

羽化した成虫について四方氏に同定を依頼したところ、トチュウウスクモヨトウであることが判明し、特殊報を発表した。

### 形態

成虫は黒褐色の羽を持ち、羽を広げた大きさは約 3 cm（図 1、2）。幼虫は、若齢のうちは緑色で背中に縦の白線が 2 本目立ち（図 3）、中老齢になると茶褐色になる（図 4）。幼虫の大きさは一般的なヨトウガ類とほぼ同様である。



図 1 トチュウウスクモヨトウ( 四方原図)



図 2 トチュウウスクモヨトウ成虫



図2 若齢幼虫



図4 老齢幼虫

## 発生生態

中国の湖南省で発見され(1995年頃)、その後、韓国でも発生が確認された(2011年)。

国内では平成29年4月に県内において成虫が採取された。幼虫は葉を糸で簡単につづった隙間に生息し、葉を食害する(図5)。年3回程度の発生と推測されている。

本種は、とちゅうの葉のみを食べる単食性とされる。密度が高まると葉を食い尽くすこともある。とちゅうの原産地は中国大陸中西部、ガリア目トチュウ科の1科1属1種で近縁種がなく、国内では薬用植物として栽培されている。



図5 とちゅうにおける食害の様子

## 防除対策

本種に対する登録農薬はないため、以下のような耕種的手法による防除対策を実施する。

- (1) 幼虫の発生初期に食害葉を見つけ、幼虫を駆除する。
- (2) 防虫網を木全体にかけ、成虫の飛来・産卵を防ぐ。

疑わしい被害等を見つけたら、最寄りの農業農村支援センター又は病害虫防除所までご連絡ください。

長野県病害虫防除所 (東北信)TEL 026-248-6471 (中南信)TEL 0263-53-5642

発行 長野県病害虫防除所 令和2年11月作成